

大江戸線(地下鉄12号線)延伸計画に関する説明資料

1. 国の動き

平成26年4月に国土交通大臣から交通政策審議会*に対して、東京圏における今後の都市鉄道のあり方について諮問がなされました。それを受け、平成26年6月以降、同審議会の下に設置された東京圏における今後の都市鉄道のあり方に関する小委員会で約2年間審議を重ね、概ね15年後（2030年頃）を念頭に置いて、鉄軌道を対象として答申を取りまとめました。（「交通政策審議会答申第198号」平成28年4月）

この答申では、鉄道に関する24のプロジェクトについての検討結果が示され、その中でも大江戸線延伸における光が丘から大泉学園町の区間は、**進めるプロジェクトの1つ**として評価されています。

東京12号線（大江戸線）の延伸 （光が丘～大泉学園町～東所沢）



出典：交通政策審議会答申第198号
（平成28年4月）

【意義】

- ・都区部北西部、北多摩北部及び埼玉県南西部と都心部とのアクセス利便性の向上。

【課題】

- ・光が丘から大泉学園町までの延伸については、導入空間となりうる道路整備が進んでおり、事業化に向けて関係地方公共団体・鉄道事業者等において、費用負担のあり方等について合意形成を進めるべき。
- ・大泉学園町から東所沢までの延伸については、事業性に課題があり、関係地方公共団体等において、事業性の確保に必要な沿線開発の取組等を進めた上で、事業主体を含めた事業計画について十分な検討が行われることを期待。
- ・なお、光が丘から東所沢までの延伸（一体整備）については、東京都と埼玉県に跨がる路線であるため、関係地方公共団体が協調して事業主体を含めた事業計画について検討が行われることを期待。

※交通政策審議会：国土交通省設置法第6条に基づき、国土交通大臣の諮問に応じて交通政策に関する重要事項についての調査審議等を行う審議会

2. 東京都の動き

令和3年3月に公表された新たな都政の羅針盤としての総合計画である「『未来の東京』戦略」において、大江戸線の延伸については、「関係者と事業化について協議・調整を進める」と明記されました。

5. 公共交通ネットワークの更なる充実

○ 海外とのアクセス向上による国際競争力強化、多摩地域の活力・魅力向上、鉄道の快適な利用などに資する鉄道ネットワークの整備・充実等について、計画的に推進



出典：「未来の東京」戦略（令和3年3月）を加工

3. 練馬区の動き

■都市計画道路補助230号線の整備

大江戸線延伸区間の導入空間となる都市計画道路補助230号線については、笹目通りから大泉学園通りまでの全長3.2kmのうち、土支田二丁目付近は練馬区施行の土地区画整理事業により整備され、その他の区間は東京都施行で整備が行われています。

笹目通りから土支田通り区間は平成25年11月に交通開放されています。土支田通りから外環道までの約850m区間は、東京都施行として平成21年7月に事業化され、外環道から大泉学園通りまでの約1,250m区間は東京都施行として平成22年8月に事業化され、用地買収が進められています。

■地区計画の策定

都営大江戸線延伸の導入を予定している空間及び周辺の地区については、地区計画を定めて、新駅周辺にふさわしい良好な住環境の保全や景観に配慮した街並みの形成を目指したまちづくりを行っています。



出典：練馬区ホームページ